

コロラド州 Saint Joseph 病院における Clinical Scholar 制度を取り入れた臨地実習

(臨地実習／看護教育／クリニカルスカラー制度)

福間美紀*・三原美津江**・岡田早苗**

Clinical Scholar Program in Clinical Nursing Training at Saint Joseph Hospital, Colorado

(clinical nursing practice / nursing education / clinical scholar program)

Miki FUKUMA *, Mizue MIHARA **, Sanae OKADA **

This paper reports a clinical scholar program implemented at Saint Joseph Hospital, Colorado, the United States, to discuss clinical nursing training approaches. In this program, clinical training is supervised by capable nurses as clinical scholars at teaching hospitals. The clinical scholars play the roles of the clinical supervisor and teacher in supervising students' training goals and behavior, sharing the practice of nursing with them, guiding them at the conference, and awarding credits to them. The program also enables students to participate in the safe practice of nursing through experiencing assessments by skillful nurses.

The clinical scholar program is educational programs aimed at enhancing the capacity level nursing practice. Clinical scholar will practice based on the thought processes involved in solving a problems and provide guidance, and opportunities that would make nursing expertise.

本報告は、アメリカコロラド州 Saint Joseph 病院の clinical scholar 制度の実際を報告し、臨地実習の在り方を検討するための資料とすることを目的とした。clinical scholar 制度は、看護実践能力が高い優秀な看護師が clinical scholar となり、臨地実習指導者と教員の役割を一手に担うものである。その役割は、学生の実習目標と行動を確認し、看護実践をともに行い、カンファレンスでの指導及び単位認定を行うことである。この制度は、clinical scholar のアセスメント過程をともに経験することで、学生の看護実践を安全で確実なものへと導くという効果が報告されている。

clinical scholar 制度は、臨地実習によって高い看護実践能力を持った看護師として学生を育成するため、clinical scholar が問題解決型思考過程に基づく看護実践や臨床指導を行うことや看護の専門性を問い直す機会を与えることのできる教育プログラムと考える。

I. はじめに

看護教育における臨地実習は、看護実践能力の向上のために学内で学んだ知識・技術・態度の統合を図り、看護方法を習得するために不可欠なものとして位置づけられている¹⁾。看護師の臨床看護実践能力を高めるには、臨地実習の充実が不可欠で教員と臨床指導者の双方の

後輩育成に関する連携と目的意識の共有が重要とされている¹⁾。しかし、大学及び病院との連携やユニフィケーションなどの取り組みがされているにもかかわらず、看護技術の到達度から指導者との連携¹⁾ や実習指導の充実に関する協働は十分でないことが課題とされている²⁾。

今回、アメリカコロラド州 Saint Joseph 病院の臨地実習の視察研修で臨地実習教育制度について視察することができた(表1)。Saint Joseph 病院は、デンバー市内の4年制大学の看護学科をはじめ8つの看護師養成施設の実習病院であり、臨地実習に clinical scholar 制度を導入している。

本報告の目的は、Saint Joseph 病院で実践されている

*島根大学医学部看護学科 基礎看護学講座
Department of Fundamental Nursing, School of Nursing, Shimane University Faculty of Medicine
**島根大学医学部附属病院 看護部
Department of Nursing, Shimane University Hospital

表1 SAINT JOSEPH 病院における視察研修内容

日	研修内容
2月28日	ミーティングと視察目的の確認 医療安全風土に関する研修会視察(すべての新入職職員対象) 教育部門会議(すべての部署) 医療安全委員会ラウンド
3月1日	女性・小児病棟のラウンド Clinical Scholar Program について ・Clinical Scholar 制度の概要の説明 Clinical Scholar のトレーニングについて ・Clinical Scholar の研修についての説明 Robotics Program について 整形外科病棟と小児病院(関連施設)
3月2日	Clinical Scholar による実習指導の見学 NPSG(National Patient Safety Goals)について 褥瘡ケアの紹介と意見交換 転倒予防対策について Heart Code Program について
3月3日	インシデント等発生報告会 感染対策について シミュレーショントレーニングの紹介
3月4日	Clinical Scholar Shadow 研修

Clinical Scholar Program に関する研修

臨地実習における clinical scholar 制度の実際を報告し、臨地実習のあり方を検討するための資料とするものである。

II. Saint Joseph における clinical scholar 制度

コロラド州デンバーには、コロラド大学をはじめ看護学を学ぶことができる大学、カレッジが多数ある。コロラド州では、看護師及び大学教員不足、大学教員の高齢化など複雑な社会問題があり、これらの克服のために clinical scholar 制度を導入している³⁾。clinical scholar 制度は、学問と看護実践を結びつけることで臨地実習の効果を高める臨床と教育のパートナーシップに基づく臨地実習での教育を行う制度である⁴⁾。この制度の核である clinical scholar (以下 CS) には、実習病院の看護師が選ばれる。CS になるためには、Colorado Center for Nursing Excellence (以下研修センター) で研修を受ける必要がある。その受講資格は、大学院修士課程を卒業し(4年制大学卒業者も一部含む)、5年間の看護師経験があることと、2年以上の実習病院での実践が必要となる⁴⁾。CS は、研修センターで臨地実習の教

育に必要な講義と演習を受講し、資格試験を課されることで教育能力の標準化が保たれている。この研修は、教育と臨床の代表的な文献等からコアカリキュラムを抽出し、40時間のコースが設定され、臨床指導のための専門的な内容が教授される(表2)⁵⁾。CS は、大学でオリエンテーションを受け、大学の目標や教育理念等を把握し、大学の規定に基づいて臨床指導を行う。この期間は、実習病院の看護師、大学の実習指導者の両方の義務を果たすように契約が変更される。研修センターでは、2005年から2年間で2コースの養成課程が設定され、その期間に45人の CS が養成されている⁶⁾。現在では CS として700人が養成されてきた。

CS の役割は、臨地実習中の学生の实習目標と行動を確認し、アセスメント、与薬、日常生活の援助、評価などを学生とともにやり、カンファレンスでの日々の振り返りと評価及び成績評価を行う。CS は、患者のプライマリーナースやスタッフナースと共同し、看護実践のためのアセスメントを丁寧に学生と確認しながら実践を行う。その内容は、「昨日までの患者の状態をどのようにアセスメントするか」、「処方された薬剤はどのような作用副作用があるか」、「その必要性は何か」、

表2 clinical scholar 制度の教育内容のアウトライン

日	満たすべき項目
1	コロラド州の看護の状況 clinical scholar の役割についてのモチベーション clinical scholar の役割, 属性, 及び責任 シミュレーションについての入門
2	学習の姿勢で考慮すべきことのような現在の学習者の特性(性, 世代, 文化的違いを含む) 成人学習者理論の序論 認知的, 感情的, 精神運動性の学習 熟慮した実践の原則と局面 批判的思考, 問題解決, 及び臨床診断学 clinical scholar の役割に関連したコミュニケーション(言語的, 非言語的, 記録, 電子カルテ, 書類)
3	コミュニケーションの効果的な方法 追及による訓練と質問による効果的な活用をつくるための構成要因 役割に関連するコンフリクトマネージメント
4	実践の範囲, 国家的患者安全目標, 医療環境および臨床現場における文化などの臨床機関における学生の役割 医療役割のガイドラインにおける法律, 倫理課題 臨床実習を計画する際の課題, 臨床配置, 学生グループをマネージメントするためのツールとリソース 学生の診断の実習記録の書き方, 学生への言語的フィードバックの提供について 事前事後の臨床カンファレンスの計画について
5	看護師国家試験の学生の成功を高めるための臨床経験をまとめる方法 教育・学習における電子技術の役割 clinical scholar のための医療安全問題 新たな clinical scholar の支援 職業に影響を与える現在の専門的問題に関する最新情報 臨床指導のために看護教育能力を高めるための国内同盟の再訪 助成金に関連した評価ツールのための要件

Karren ら: Table 2 Outline of clinical scholar program³⁾. 訳(一部改編)

「その行為で考えられる危険性」, 「実施した後の観察はなにがあるか」, など, 詳細なものである。学生は, 看護実践能力が高い CS の発問に答えることで必然的に高いレベルのアセスメント過程をたどることになる。そして, これらの丁寧な指導は, 学生と CS との信頼関係を構築するとともに, 学生もチームの一員であるという意識を高めることができる。

しかし, 学生は丁寧な指導を受けながらも実習経過の中でトラブルを抱えることがある。そのような場合, CS は, clinical scholar coordinator の指導を受ける。clinical scholar coordinator は, メンターとして学生と面接し, 必要に応じ大学に連絡し, 教員と協議しながら実習を進める。

この clinical scholar 制度のメリットは, CS が実習病院の職員であり, 病院ごとに異なる看護方法やそのための看護システムの違い, 新たな人間関係に悩まされることなく行えること, 最新の看護・医学の知識を持っていること, 6人の学生を担当し親密な関係形成ができることにある。さらに, CS は臨床, 教育の両方の視点から活躍し, 自己の知識と技術もブラッシュアップし, 自分自身の向学心が高まり大学院などに進学する者もいる。

学生は, CS の十分な受け持ち患者に関する状態把握

に基づいた実習指導をうけ, 臨地実習による教育効果が高まったと評価されている。

Saint Joseph 病院は, 病院の理念として「患者の安全の保障」をあげている。臨地実習でも同様に学生には, タイムリーであること, 意欲的にすること, プロ意識, コミュニケーションなどよりも「患者の安全の保障」を最も重要な理念として行動をとることが求められていた。

III. 考 察

Saint Joseph 病院の臨地実習は, 看護の専門職を育てることを教育理念としていた。看護の専門性を高める教育には, 4年間の看護基礎教育課程で専門的な知識を確実に獲得し, 臨地実習で既習の知識に基づいてアセスメントし, 実践につなげることが求められる。そこには, 実習病院の指導者が問題解決型の思考過程に基づき実践することや臨床指導者が学生の考えを論理的に導くこと鍵となると考える。

また, Saint Joseph 病院で実習する学生は, 看護実践能力向上や専門性の高い看護師の育成することを目的として, 病棟のチームの一員としての役割を担いながら, 看護ケアについての責任を持ってあたっていた。

また、学生は、医療依存度の高い患者であっても臨床看護実践能力の高いCSとともに看護ケアにあたることで、看護の専門性を見つめなおし、看護観を深める経験ができていたと考える。

我が国において看護教員及び臨床指導者は、教授力・指導力⁶⁾や、その連携・協働²⁷⁾についての課題が指摘されている。Saint Joseph 病院での看護実践能力を高める臨地実習を可能にするためには、教育及び臨床の立場からの課題を共有し、質の高い看護師の育成するために必要な臨地実習の在り方を検討することが必要である。

謝 辞

このたび、海外での貴重な研修の機会を与えて頂いた島根大学医学部附属病院 小林祥泰病院長、秦美恵子副病院長・看護部長、島根大学医学部看護学科 内田宏美看護学科長、そして Saint Joseph 病院 Shepler, Mary E. Vice President of Nursing と Deborah Campbell Director of Professional Nursing Practice に感謝いたします。

引用文献

1) 文部科学省：大学における看護実践能力の育成の充実に向けて看護学教育の在り方に関する検討会報告

書，2002.

- 2) 文部科学省 看護学教育の在り方に関する検討会：看護実践能力育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標，2004.
- 3) Karren Kowalski, Kimberly Carroll, Deborah Center, Katherine Foss, et al: Nursing Clinical Faculty Revisited: The Benefits of Developing Staff Nurses as Clinical Scholars. The Journal of Continuing Education in Nursing 2007; 38: 69-75.
- 4) Preheim, Gayle, Casey, Kathy, Krugman, Mary: Clinical Scholar Model: Providing Excellence in Clinical Supervision of Nursing Students. Journal for Nurses in Staff Development 2006; 22: 15-20.
- 5) Kowalski K, Horner, Houser J.: Evaluation of a Model for Preparing Staff Nurses to Teach Clinical Groups of Nursing Students. Journal of Continuing Education in Nursing 2010; 42: 233-240.
- 6) 楠葉美千代, 齋藤ひさ子, 福澤雪子：看護学実習における実習指導者と教員の協働に影響する要因. 産業医科大学雑誌32巻2号, 161-176, 2010.
- 7) 岡田ルリ子, 青木光子, 相原ひろみ, 徳永なみじ, 和田由香里, 関谷由香里, 野本百合子：基礎看護学実習における技術教育の課題 2年間の看護技術経験状況の分析から. 愛媛県立医療技術大学紀要5巻1号, 65-73, 2008.

(受付 2011年8月10日)